

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(H29～R1年度:計画作成主体:砂川市農業再生協議会)(北海道)

取組の概要

取組の概要 : きゅうりの安定生産・均一化による収益向上
 計画作成主体 : 砂川市農業再生協議会
 対象品目 : きゅうり (産地面積3.3ha)
 主な取組主体 : 新砂川農業協同組合
 成果目標 : 10a当販売額の10%以上の増加
 助成金の活用 : 整備事業 (集出荷貯蔵施設)
 状況 (きゅうり選別施設)

ポイント

手作業の選果による品質のばらつきが解消されることにより品質の平準化と上位等級が確保され、平均単価が上昇し収益向上が見込まれることから、農業所得の安定が図られ、作付面積の維持拡大により産地として更なる発展を目指す。

地区の概要



産地の現状と目標

〈現状:H28年度〉

作付面積 : 3.311ha、出荷量 : 370,495kg
 10a当販売額 : 2,939千円
 増加する作付面積に対応できない選果能力(手選別)と選果基準の不均一

〈目標:R1年度〉

作付面積 : 3.766ha、出荷量 : 435,785kg
 10a当販売額 : 3,270千円
 選果能力の向上による作付面積の拡大や選果基準の統一・均一化、選果時間の短縮等により品質や規格の高位平準化により販売額の増加と産地のブランド化を図る



産地体制

地域の関係者(砂川市、奈井江町、新砂川農業協同組合、普及センター、生産部会、農業関係者等)が一体となり事業を推進。

地域における独自の取組

〈主な取組〉

○栽培基準(栽培暦)を定めるとともに、土壌分析に基づき施肥及び栽培方法を検証し、年2回、全戸の圃場を巡回し高品質、安定生産技術の指導を実施。

〈市町村単独事業〉

○堆肥供給施設を整備し、堆肥利用生産者に対し市・町・JAが連携して助成を実施。

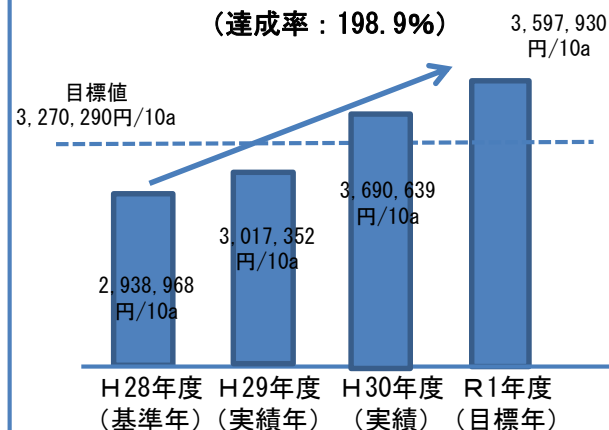
取組成果

○選別施設の導入により、選果ムラが解消され品質の均一化が可能となり、高品質化による単価の底上げが可能となる。

～きゅうりの販売額～

10a当たりの販売金額が22.4%増加

(達成率 : 198.9%)



※目標年は価格補正後